

# 住民自治協議会

## 創刊号

発行：小田切地区住民自治協議会 総務・安全防災部会

「安全・安心・安住のさと小田切」をめざし、小田切地区住民自治協議会の設立総会が2009年3月7日、小田切農村環境改善センターにおいて開催されました。新体制がスタートし、評議員会・部会を中心に今後の活動方針及び課題等について協議し検討を進めております。

## 小田切を元気に！

### 就任あいさつ

小田切地区住民自治協議会 会長 齊藤 裕

花の便りも聞かれるこの頃ですが、皆様方にはますますご健勝のこととご拝察申し上げます。

去る3月7日、小田切地区住民自治協議会設立総会が約90名の皆様の出席を頂き盛会に開催された中で、図らずも会長という大任を仰せつかりました。もとよりその器ではなく、責任の重大さに身の引き締まる思いをいたしているところであります。

当地区は地理的条件が極めて悪く、昨今著しく変化していく社会情勢の中にあって、少子高齢化が一段と進み、教育の殿堂である小中学校が廃校となり、また、JA支店も姿を消し、限界集落とささやかれている様な状況下におかれております。

また、これから更に高齢者世帯や一人暮らし世帯も多くなると予想され、これらの家庭への生活援助、冬期間の除雪の問題をはじめ、安心して暮らせる環境の整備にも配慮していかなければと思っております。

このほか荒廃していく農地の活性化、現在実施されている福祉自動車の充実等課題が山積しております。どれ一つ取っても難しい問題ばかりでございますが、皆様方の格段のご指導ご支援を頂き、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という意識を持ち「小田切を元気に！」を合言葉にして、職責を精一杯果たして参りたいと存じますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

さて、平成22年度からは長野市版都市内分権が本格的にスタートし、市が主導して設置した団体や委嘱制度が廃止され、市から一律にお願いしていた事務・活動も最小限に減少し、廃止する団体等への補助金が一括して各地区の住民自治協議会へ交付されてまいります。市からの小田切地区の(仮称)一括交付金につきましては、活動費166万円、事務担当の人件費100万円、中山間地域に対する支援交付金60万円の合計326万円が交付される予定となっております。

そのような中で、平成21年度の当協議会の最も重要な事業は、小田切地区の各種団体の統廃合を含めた地区の特性や実情にあった取り組みを考えることと各部会への交付金の予算配分になるのではと考えております。

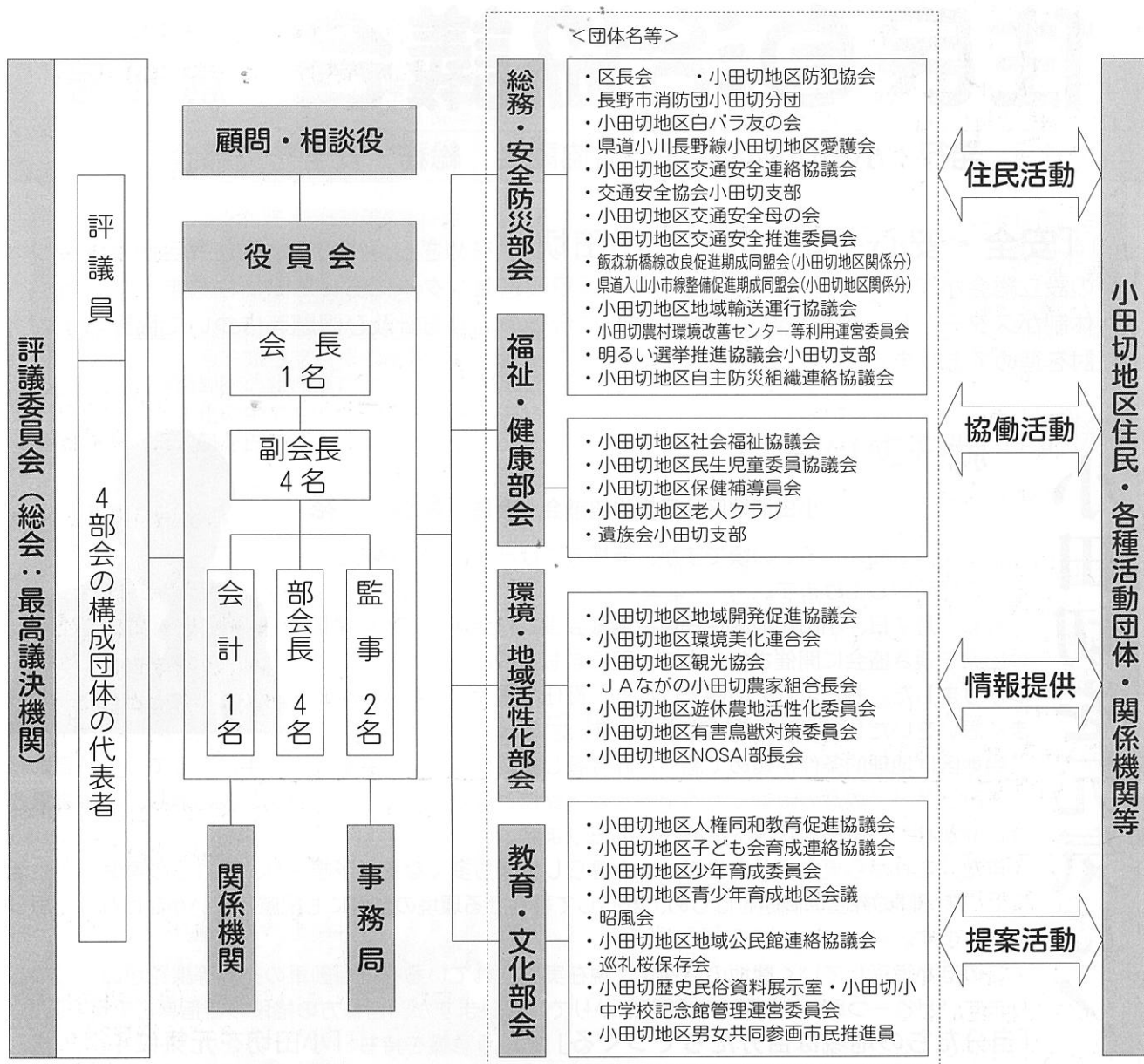
いずれにいたしましても、何分にもはじめてのことであり、いかに適正かつ有効な運営が図られるか思慮されるところであります。

皆様方の幅広いご意見を頂き、少しでも心豊かで住み良い地域創りが出来ればと望んでおります。

皆様方の深いご理解とご支援を重ねてお願い申し上げます。



# 小田切地区住民自治協議会組織構成



## 役員紹介

会長	齊藤 裕	総務・安全防災部会長	竹内 弘司
副会長	竹内 弘司 山上 健一 竹内 重雄 池田 光揮	福祉・健康部会長	山上 健一
会計	北澤 栄樹	環境・地域活性化部会長	竹内 重雄
監事	小林 孟栄 海沼 一	教育・文化部会長	池田 光揮
		相談役	酒井 昌之

# 小田切地区住民自治協議会設立準備会経過報告

## 1 会議の開催及び内容

### (1) 第1回準備会（設立総会）

企画課都市内分権推進室職員より、長野市版都市内分権の現状と今後の日程等についての話を聞く。

総会に提出された議事の第1号議案から第6号議案について、承認された。

- ・第1号議案 検討会経過報告
- ・第2号議案 設立準備会会則
- ・第3号議案 役員の選出
- ・第4号議案 事業計画
- ・第5号議案 予算
- ・第6号議案 スケジュール

平成20年1月16日(水) 22名出席

### (2) 第1回準備会役員会

七二会、芋井地区で実施したアンケートを参考に、アンケート対象者及び質問内容等について検討した。

アンケートの対象者は中学生以上とし、実施時期及び内容の最終確認については、第2回準備会役員会で決定することとした。

平成20年2月18日(月) 13名出席

### (3) 第2回準備会役員会

平成20年度が区長の改選期にあたるため、新区長を交えてアンケートの実施時期及び内容について再度確認した。アンケート内容については変更がなく、実施時期は4月下旬から5月上旬に各区でアンケートを配布し、5月12日(月)までに回収することとした。

また、アンケートと一緒に都市内分権の啓発用チラシも配布した。

平成20年4月16日(水) 14名出席

### (4) 第2回準備会

アンケート結果がまとまったので、結果について事務局が説明を行い、小田切地区の課題や今後について研究していくこととした。

また、住民自治協議会の組織構成についても他の地区の部会の構成を参考に話し合った。

平成20年6月18日(水) 23名出席

### (5) 第3回準備会役員会

住民自治協議会の部会の数及び部会の分け方について話し合った。その後、部会に属

する団体についても検討し、案を作成した。

- ・住民自治協議会の部会の数と名称（案）
- ア 総務・安全防災部会
- イ 福祉・健康部会
- ウ 環境・地域活性化部会
- エ 教育・文化部会

平成20年7月24日(木) 16名出席

### (6) 第4回準備会役員会

小田切地区住民自治協議会会則および組織図について話し合った。

設立趣意書については小田切地区の目指す将来像等を述べるものなので、準備会役員で検討することとした。

平成20年9月18日(木) 15名出席

### (7) 第5回準備会役員会

部会に属する団体について再検討し、男女共同参画市民推進員を教育・文化部会に追加した。趣意書についても検討し、次の役員会で最終案を作成することとした。

平成20年12月3日(水) 15名出席

### (8) 第6回準備会役員会

設立趣意書、平成20年度予算及び事業計画並びに役員の選出方法等について検討した。

平成21年1月22日(木) 15名出席

### (9) 第3回準備会

設立総会に向け、設立趣意書、会則、組織構成等の資料について最終確認を行った。

平成21年2月18日(水) 23名出席

## 2 アンケート

### (1) 主な回答内容

生活していて不便な点や困っていること

第1位	交通の便	19.8%
第2位	高齢化	15.9%
第3位	除雪	10.1%

地域で実施・充実してほしい事業

第1位	高齢者世帯の雪かき	14.8%
第2位	福祉自動車	14.8%
第3位	有害鳥獣対策	11.0%

### (2) 回答者数 871名

(男性441名、女性428名、無回答2名)

# 小田切地区住民自治協議会設立趣意書

## ●はじめに —

住民意識を高揚し「自分達の地域は自分達でつくる」という、都市内分権の基本理念に則って、ここに「小田切地区住民自治協議会」（以下「協議会」という）を設立します。

## ●うつりかわり —

私達の小田切地区は、明治22年の町村制により、3ヶ村が合併して小田切村として誕生しました。当地区は、南は国道19号（旧大町街道）、北は国道406号（旧鬼無里街道）に接し、東西に5.9km、南北に5.6kmの起伏のはげしい山間地域です。

主穀農業を主体に全盛を極めた時代も、昭和20年太平洋戦争の終結によって、民主主義国家建設という一大転機を迎え、急傾斜地等の立地条件の不利益から、基幹産業である農業の衰退とともに、若者の流出はとどまるところを知らず急速に過疎・高齢化を招き、遂には教育の殿堂をも失う事態となりました。

また、小田切地区の耕作放棄地は69%と7割近い状況になっています。

このような変化の中で当地区の基幹産業であった一次産業は、一部の果樹農家を除き農外収入に頼った自給的農家が大半を占めるようになる一方で、二次三次産業に収入を求める家が多くを占めるようになってきました。

## ●変革の必然性 —

協議会の設立準備会が実施したアンケートによっても、当地区の職業は、会社員・公務員が30.8%と最も多く、次に農業23.3%、商業・自由業5.4%となっております。

このように混住化が進んだ現状では、そのニーズに即した地区づくりが要求されます。

## ●スローガン —

### 安全・安心・安住のさと小田切

## ●協議会の活動 —

具体的な活動としては、「小田切を元気に！」を合言葉に、

- 1 安全で安心して快適に暮らせる地域づくり
- 2 はつらつとした活力のある地域づくり
- 3 みんなで学びあい支えあう地域づくり
- 4 感謝と思いやりのある地域づくり

の4点を柱に据え、活動してまいります。

## ●おわりに —

ことわざ「すべての道はローマに通ず」の教訓の如く、各部会は常に住民世論を喚起し、時代のニーズを捉えながら協議会活動を推進することが、安全・安心・安住のさとづくりに通じる道と信じます。

平成21年3月7日

小田切地区住民自治協議会設立準備会

## 自治会後記

小田切地区住民自治協議会設立総会が多数の住民参加のもと開催され、議案についても原案どおり可決され、いよいよ「小田切丸」の船出となりました。

これからは自分たちの小田切は自分たちの力で創りあげるをモットーとします。

小田切の住民が一体化し、団結力を強化、心意気を合わせ、皆さんの知恵袋や情報を提供共有しあいましょう。

“小田切を支え合うネットワークづくり”を行い、地区住民と身近な問題を話し合い小田切地域の豊かな個性の発掘に励み、活かされた小田切版“ふる里づくり”を皆さんで考えましょう。

最後に皆さんで力を合わせ協議会活動のシンボル「小田切を元気に！」をターゲットに邁進しましょう。